

ステップ 1 Step 1 現状把握

地域の現状を知る

1. 多様な団体とコミュニケーションを取ろう

各地域や小学校区には地域協議会以外にも、防災、防犯など、それぞれの分野に特化した地域活動団体があります。

地域協議会の設立以前から長く活動を続けている団体もあれば、これから活動を始めようという新設の団体もあるでしょう。また、円滑に活動を継続できている団体もあれば、活動や運営などで課題を抱えている団体もあると思います。

こうした団体と積極的にコミュニケーションを取り、場合によっては地域協議会活動に協力／参画してもらうことで、活動の重複を防ぐ、または活動を補い合う関係が築けるだけでなく、経験値やノウハウを団体間で共有することにより、お互い活動の質を高め合うことができ、地域協議会活動の発展につながります。



2. 地域づくりミーティングを企画しよう

地域協議会の活動（地域づくり）を進めるにあたって、まずは地域の現状を知っておく必要があります。

自分たちの地域にはどんな魅力や資源があるのか、好きなところや自慢できるところはどこか、人口が増えているのか減っているのか、どういところを改善していきたいのかなど、地域の現状を明らかにしておくことが、その後の目標設定や課題対応へのヒントになります。

「地域づくりミーティング」は、地域に暮らすすべての人を対象に、参加者同士が自分たちの地域のことをテーマとして、日常生活の中で感じる地域の問題点やその解決策などについて話し合う場です。

生活の中で抱える問題は、年齢や性別、立場などによって異なることがありますので、地域協議会の関係者のみならず、回覧等を使って広く地域住民に参加を呼びかけると良いでしょう。地域に暮らす幅広い世代に「地域づくりミーティング」に参加してもらうことで、地域協議会の認知度向上や新たな仲間づくりに繋がることも期待されます。

「地域づくりミーティング」には決まった形式はなく、「何を話し合いたいのか」、「どんな課題に対応したいのか」などによって、その都度、開催方法や進め方を考えていくこととなりますが、ここでは例としてまちづくりや地域活動において、よく使われる会議手法等について紹介します。

地域の魅力や課題は時が経つにつれ変化することがありますので、活動の成果を確かめる意味でも、少なくとも1～2年に1度は開催し、定期的に地域の現状を把握することが望ましいでしょう。



Step1 現状把握

(1) K J法による地域づくりミーティング

「K J法」は、もともと川喜多二郎（Kawakita Jiro）氏によって開発された分類・整理の手法の一つで、4～8人程度のグループに分かれ、各自の意見をふせんに書き、相互に意見交換をしながら、模造紙上でそれらの意見を整理していく方法です。

自分たちが住む地域の「好きのところ」や「最近の困りごと」をテーマに意見交換を行うことで、地域協議会として取り組むべき課題が見えてきます。

「K J法」による地域づくりミーティングの流れ【約1時間半】

●ステップ1：進行説明（5分）

- ① ファシリテーターによる趣旨説明
- ② 今回の目標や発言のルール、進め方の説明

●ステップ2：グループ分け～アイスブレイク（15分）

- ① 参加者を話し合いやすい4～8人のグループに分ける
- ② 二人一組でミニゲームやお互いをグループ内の人に紹介しあう他己紹介など、簡単なアイスブレイクを行う

●ステップ3：グループでの作業（50分）

- ① グループリーダーの進行により作業を進める
- ② テーマにしたがって、参加者が各々の意見をふせんに記入（1枚1項目が原則）
- ③ ふせんに書いた意見をグループのメンバーに見せながら、お互いの意見を確認しあう
- ④ 模造紙の上で、ふせんの位置を貼りかえ、意見の共通する項目、相違する項目ごとに、全員でまとめて整理する
- ⑤ 整理した項目を確認し、発表者を決める



●ステップ4：発表（20分）

- ① 各グループのまとめを発表し合う（1グループ3分程度の発表）
- ② 全グループが発表して終了

📎 知っておきたい、基本的な用語

○ファシリテーター

地域づくりミーティングの進行役を指します。
進行のみならず、中立的な立場から、参加者同士の自由に活発な発言を促しつつ、的確な成果へ導く重要な役割を担います。

○グループリーダー

地域づくりミーティングでは、少人数（4～8人程度）のグループ単位で進めることが多く、このグループの中でファシリテーターと同じ役割を果たす人のことを指します。

○アイスブレイク

地域づくりミーティングで欠かせないのが、参加者が自由に意見を出しやすい楽しい雰囲気づくりです。
そのための参加者の緊張感を解きほぐす手段をアイスブレイク（氷を割る）と呼び、さまざまなアクティビティがあります。

📎 準備しておくの良いもの



▲マーカー



▲サインペン（黒）



▲模造紙



▲大きな名札



▲タイマー



▲ふせん



▲テープ

Step1 現状把握

(2) まち歩きによる地域づくりミーティング

「まち歩き」は、自分たちのまちの課題や魅力を再発見するために、とても有効なアクティビティです。5～10人でグループになり、地域の気になるところを歩いて記録し、話し合います。

普段なにげなく見ている風景や良く知っているはずの街並みも、違う視点で見ると新しい発見があります。

「まち歩き」による地域づくりミーティングの流れ【約1時間半】

●ステップ1：説明～グループ分けの決定（10分）

- ① 趣旨説明後、参加者を少人数のグループに分ける
- ② 地図係、記録係の役割分担を決める
- ③ 全員で歩くルートを決める（事前に決めておいてもよい）



●ステップ2：まち歩き（50分）

- ① 役割分担に基づき、地図係は道案内と現在地の確認を、記録係は参加者の意見を記録しながら歩く
- ② テーマに沿って、気づいたものについて意見を交換しあいながら歩く
- ③ 時間内に会場にもどり、休憩



●ステップ3：まとめ（15分）

- ① 地図を前に自分達の歩いてきたルートを確認する
- ② 必要な意見やコメントをふせんに書き写し、地図にまとめる

●ステップ4：発表（15分）

- ① 各グループの成果を相互に発表、報告する

📎 準備しておくの良いもの



▲ 学区の地図



▲ 筆記用具、下敷き



▲ カメラ

(3) ミーティング以外の手法（アンケート）

地域に暮らす方々の生の声をより多くより広く集めるために、「アンケート」は最も適した手法とも言えます。

特に最近ではインターネットの普及により、質問する側も回答する側も手軽にアンケートに参加できるようになっています。

普段、地域づくりに参加しづらい「働く世代」や「学生」などにはアンケート調査を通して地域活動の意義を知ったり、興味を持ってもらったりするきっかけになることもあります。

「アンケート」の流れ【1か月程度】

●ステップ1：調査対象の決定、依頼文・アンケート調査票の作成

- ① 調査したい内容とアンケートの対象者を決定
- ② アンケートへの協力を求める依頼文を作成
 - ※依頼文には「アンケートの実施年月日と期限」、「調査主体（問い合わせ先）」、「目的」、「提出方法」、「注意事項（個人情報の保護等）」などを明記
- ③ アンケート調査票を作成
 - ※アンケート調査票に関する留意点などは P. 7、8

●ステップ2：アンケートの実施

- ① 地域の規模や対象者などに応じて、配布方法や回収方法などを決定
- ② アンケート調査票の配布/公開

実施方法の例

- ・地域協議会の役員や担当者が配布し、回収、または直接提出してもらう
 - ⇒提出用の封筒を用意、回収の負担から対象者が少ない場合に有効
 - ・回覧等で配布し、会館等に専用の回収箱を設置して回収する
 - ⇒会館や学校、公共施設などに設置、対象者が多い場合に有効
 - ・Web 上で実施する
 - ⇒物理的な回収が不要、対象者が比較的若い場合に有効
- ③ アンケート調査票の回収
 - ④ アンケート結果の集計

アンケートの設問例

Q. アンケートに回答いただける方の属性を教えてください。

- ・年代 (【アンケート対象に応じて年代を記載】) 歳代
- ・性別 (男性 ・ 女性)
- ・お住まいの地区 (【学区に応じて区名を記載】) 区

Q. お住まいの地区に持っているイメージに該当する項目を○で囲んでください。

- ・高齢者の数 (多い ・ 少ない)
- ・高齢者への支援や居場所 (ある ・ ほとんどない)
- ・子どもの数 (多い ・ 少ない)
- ・子どもへの支援や居場所 (ある ・ ほとんどない)
- ・近所づきあい (ある ・ ほとんどない)
- ・住民の地域行事への参加 (積極的 ・ 消極的)

Q. お住まいの地区や小学校区の魅力だと感じることは何ですか？

最も近いものを次のうちから最大2つまで選んで○で囲んでください。

- ・安全安心 (防災、防犯など)
- ・年をとっても住みやすい (福祉)
- ・きれいな街並み (都市整備、環境美化など)
- ・近所や地域との交流 (イベント、多世代/多文化交流など)
- ・その他 ()
- ・特にない

Q. お住まいの地区や小学校区の課題だと感じることは何ですか？

最も近いものを次のうちから最大2つまで選んで○で囲んでください。

- ・安全安心 (防災、防犯など)
- ・年をとっても住みやすい (福祉)
- ・きれいな街並み (都市整備、環境美化など)
- ・近所や地域との交流 (イベント、多世代/多文化交流など)
- ・その他 ()
- ・特にない

Q. 上記の課題を改善/解決していくために必要だと思う取り組みがあれば自由にお書きください。

📎 ミーティングを開催するときのヒント

参加者が集まって行う形式でミーティングを開催するときには、以下の点に注意しましょう。

- ① 回覧や掲示板などを利用して広く周知、案内する
(若年層の参加を促す際にはホームページやSNSの活用も検討)
- ② 働く世代にも参加しやすい日にち、時間帯、場所で
(平日の日中や夕方、連休の中日は避けるなど)
- ③ ミーティング結果は保管し、次回に活かす
- ④ 地域にミーティングの成果を周知(事業化の有無など)
- ⑤ 進行等不安がある場合は市(支え合い協働推進課)やミーティングをサポートしてくれる地域団体(ファシリテーターの会など)に協力を求める

📎 アンケート調査票を作るときヒント

アンケート調査の回答率を上げるため、アンケート調査票を作るときには、以下の4つの点に注意しましょう。

- ① 質問文は簡潔で誰にでもわかりやすい文章を心がける
- ② 設問数は少なく、なるべく選択式にする
- ③ 専門用語などの使用は避ける
(使用する場合は意味を書き添える)
- ④ 回答方法を明確にしておく
(選択肢から1つだけ選ぶのか、複数選べるのかなど)
- ⑤ 質問項目以外に回答者の性別や年齢などを回答する部分(フェイスシート)を用意する場合は、プライバシーに配慮し、必要以上に質問しないようにする

参考資料

- ① 小牧市市民意識調査
(市民生活の現状についてのアンケート)
- ② 防災アンケート調査



①市民意識調査



②防災アンケート

3. 地域の現状を整理しよう

「地域づくりミーティング」が終わったら、会議で出された意見をまとめ、整理してみましよう。

意見を整理する際には「クロス分析」を行うことで地域の特色や課題が分かりやすくなります。

クロス分析とは意見をいくつかの「属性」に分け、それぞれの「属性」を掛け合わせて分析する方法です。

分析の例として、まず、ミーティングでの意見を「防災」「防犯」「福祉」などの分野別に分けていきます。

次に、各分野の中で良い点（長所）と課題点（短所）に分けると、どの分野にどんな強み・弱みがあるのか、特色や課題が分かりやすくなります。

地域の長所を伸ばすことはもちろん、短所と思える部分もアイデア次第で地域活動のきっかけや成果へ結びつくことがあります。

◆ □□小学校区地域協議会のクロス分析の例（分野×長所/短所）

分野	長所	短所
防災	・土地が高い場所にある ・水害の心配が少ない	・避難所の運営スタッフが少ない ・狭い道にある自販機の転倒
防犯	・住宅地で人目が多い ・街灯などで夜でも明るい	・生活道路を抜け道にする車が多い
⋮		
福祉	・サロン（活動）が多い	・サロン等の担い手がいらない ・高齢化の進行

アンケートの調査結果を集計する場合は、前述の方法に加え、回答者の年代や性別などの属性で各設問の調査結果を分析することもできます。

この方法では、年代・性別による回答の違いが傾向として分かり、各属性で上位にあがっている項目は、住民全体で意識、要望が高い項目と言えます（下の例では「災害への備え」）。

◆□□小学校区地域協議会のクロス分析の例（年代×設問）

「設問例．わたしたちの地域の「課題」だと思われることを教えてください。（複数可）」

年 代	第 1 位	第 2 位	第 3 位
20 歳以下	飲食店が少ない	交流行事の企画	災害への備え
20～65 歳以下	子育て支援	災害への備え	行事などの整理
65 歳以上	高齢化対策	災害への備え	伝統の継承

また、地域づくりミーティングで整理、分析した意見などは回覧や掲示板、ホームページやSNSなどのWebを通じて地域に公開、共有するようにしましょう。

地域の特色や課題を広く共有することで、その後の地域協議会活動への理解や協力が得られやすくなります。

